



414
A 233

第五十三

八葉

天正十一年四月
陽候郵奇贈

二月廿八日ウイキレメール

政府戦地ノ報告ヲ秘シテ世ニ泄ラサル間ハ
港談飛説臆問戸隙ヲ経テ人々ノ家ニ入り而シ
又他ニ傳播スヘシ然ルニ其評説タル固ト出所
ヲ詳カラセス是非決ス可カラサル浮説ナレハ
其流傳スル間其真ヲ失ヒ其實ヲ飾リ或ハ信ミ
或ハ疑フ一ニ之ヲ傳フル人ノ意ノマ、ニメ
確乎タル實情ハ終ニ得ヘカラス獨リ是ノミナ
ラス適、^ト憑信スヘキ確説ヲ民間ノ私報ニ得ル
アリト雖氏又故ラニ之ヲ攪乱セントスル者ア



リテ人コトニ疑懼ヲ懷クニ至レリ固ヨリ民間
ノ私報ト雖モ其憑信スヘキト間公報ノ上ニ出
ル者アリ故ニ新聞ノ刊者ハ獨リ公報ヲ仰ク可
ラス務メテ訪求ヲ廣クシ其純ナル者ヲ擇ムト
其職ナリト雖モ今回騷亂ノ諸報告ハ政府務メ
テ之ヲ廣布スルト即チ政府ノ利ニシテ之ヲ秘
スルハ却テ其害ナリ

又

時勢論

方今騷亂ノ間戰地ヨリ來ル諸報告ヲ外國新聞

ニ托シテ公布スルノ政府ニ利アル所以ハ前文
短簡ニ論載シタリ其論中云ヘル如ク新聞家ノ
職務ハ獨リ是ノ如キ公報ヲ特ム可ラス其カラ
極メテ百方他ヲ搜索シ以テ公報ヲ補フヘシ是
ノ如クナル時ハ一事數說ヲ生シ其說或ハ表裏
矛盾スルトアリト雖モ是レ之ヲ印行スル人ノ
其醜ヲ掩ヒ其美ヲ飾ラント欲スルカ為メナラ
ス此說ヲ為ス人ノ見ル所異ナルカ故ナリ且ツ
其說或ハ乖戾スト雖モ大謬誤ヲ生スルニ非ス
勝ト云ヒ敗ト云ヒ或ハ相持シテ決セスト云フ

ニ過キサルノミ然レモ政府未タ爆発セサル伏
禍ヲ公布シ或ハ之ヲ懼ル、情實ヲ公布スルハ
甚タ其好マサル所ナルヘシ故ニ是ノ如キ情實
ヲ蒐集スルトハ則チ新聞家ノ職ニメ世人ハ其
新聞ニ記スル事實ト投書家ノ論トニ據リ其時
勢如何ヲ察スヘキナリ余カ切ニ政府ヲ知ラ
シメント欲スルハ世人好説ヲ得ルモ之ヲ以テ
時勢ヲ察シ惡説ヲ得ルモ亦之ヲ以テ時勢ヲ察
スレハ願クハ其説ヲシテ正確ノ實事ナラシメ
ント欲スルナリ洋人ノ日々ノ報告ヲ貴トムハ

其常食ノ如クナルト及其報告ニ曰テ好惡ノ見
ヲ立ツルヲ速カナルトハ之ヲ亜細亞諸邦ノ政
府ニ説クモ決シテ解スルト能ハシ加フルニ新
聞ノ刊者或ハ故サラニ事實ヲ矯メ或ハ委シク
之ヲ知ラサルヨリ謬傳誤載比々タルヲ以テ政
府新聞ヲ貴トムノ意ヲ薄クスル者アリ然レモ
切ニ望ムラクハ政府余カ進ムル言ノ吃緊要ノ
事ナルヲ認メ以テ新聞ノ刊者ヲメ其職ヲ盡ス
トヲ得セシメ又兼テ世人ニ正確ノ事實ノミナ
ラス其事實ヨリ生スル議論ノ正確ナル者ヲ知

ラニメント欲スルノミ是レ大ヒニ政府ニ利アルヘシ

右ノ如ク饒舌ヲ費シテ後我曹ノ有スル事實ハ如何ナル者ナリヤ此事實ニ據テ何如シカ時事ヲ察スヘキヤラ説クヘシ

第一ニ説クヘキハ其数多ク其力強ク其智長シ武事ニ熟練シテ且ツ其性質頑傲敢決ナル者種々ノ故アリテ目方ノ政府ヲ怨惡スルアリ其怨惡ノ原因ハ第一ニ千八百六十八年ノ大變以來其身位ノ大ヒニ零落シタル是ナリ第二ハ政府

朝鮮ノ辱ヲ受ケテ之ヲ雪カントセサル是ナリ此原因ハ獨リ西南ニ就テ云フヘク且ツ蓋シ稍ク口實ニ渉ル者アラン第三ニハ近頃内閣不均稱ノ償ヲ與ヘ其幾百年ノ世權ヲ剥カントセル者即チ是ニシテ蓋シ今回ノ乱ハ首トメ此ニ胚胎セルニ似タリ外人ノ知ル所ヲ以テ察スルニ士族此一事ヲ怨ムテ極メテ深ク之ヲ不正酷虐ナリト云ヒ又其名ハ人ノ好ニ任セテ其實ハ之ヲ強フルニ同シキ下ヲ欺ムクナリト云ヘリ此徒又政府ノ外人ヲ雇ヒ國財ヲ浪費スルヲ疾

ムト云フ此一条ハ今日就新ノ政ヲ好悪スル人
ニ因テ可否ヲ異ニスヘク又外人ヲ選ムノ精粗
如何ニ由ルヘシ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ其精粗ハ
姑ク置キ唯外人ヲ用フル如何ヲ論スレハ此說
甚タ理ナシ邦人ニ俸給ヲ與ヘスメ外人ノ助ヲ
得ント欲スルモ為ス可ラス而メ其人暴シテ有
カノ人ナラハ其器ニ随テ之ニ報フルト不可ナ
ルトナシ右記スル所ハ方今擾乱ノ大原因ニメ
此他尚ホ外人ニハ知ルトヲ得サル種々ノ苦状
アルヘシ喻ヘハ近頃長崎ヨリ一投書ヲ得タリ

其投書家ハ識見アリ且ツ沈實ノ人ナリ然ルニ
其書中云フ此乱全九州ニ波及スルノ勢アリト
又云フ既ニ肥後ニ於テモ肥前ニ於ルカ如キ暴
舉アリタリト是ノミナラス薩州モ亦頗フル隣
州ノ人氣ニ感シタリト云フニ至レリ然レモ此
言ハ甚タ信シ難シ島津三郎言ヲ食ミ義ヲ忘レ
テ反覆スルニ非レハ此事ナカルヘク而メ公亦
此甚シキニ至ラサルヘキノミ現ニ今週間英ノ
プロビンシヤル、コールト 横濱法ニ許ヘタル事
街ノ名
件ヲ觀レハ日本人ノ信ヲ貴トムト薄キニ似タ

レ此之ヲ古史ニ徴スレハ決シテ薄シト謂フ可
ラス其屠腹ノ制アル其廉恥ノ深キ及ヒ其政府
ヲ推尊スル盛ナルカ如キハ必ラス邦人ノ德行
中ニ算入スヘキ者ナリ近頃北人恐クハ南ノ領
袖タリシ人ヲ廢黜セシ一事ハ賢々訥フル所ニ
シテ永ク怨惡ノ源タラシトハ知ル可ラズト雖
不平ノ氣ノ右諸州ノ外ニ蔓衍セル廣狹如何及
右諸州内ニ於ル強弱如何ハ余カ曹ノ得テ知ル
所ニ非ス

農氏ニ就テハ言フヘキ者甚タ少シ但未タ決

シテ反徒ニ加ハラス且ツ政府日新ノ諸工役ヲ
興シテ己ムヲ得ス民ニ取ルテ厚キニヨリ下民
竊カニ往日ヲ慕フノ意アルハ分明ナレト亦甚
タ此輩ニ就テ慮カルヘキ者ナキニ似タリ工高
ノ輩ニ至テハ殊ニ憑信スヘキ一事ヲ知ラス但
此輩モ分明ニ厚欽セラレト畢竟柔順ニ御
シ易キ徒ナルノミ 以上ハ奉戴ノ義務アル者
ヲ論ス

以下ハ撫育ノ任アル者及其權カ又其權ヲ行フ
所以ノ器ヲ論スルニ余ヲ以テ觀レハ内閣中ノ

首領タル人已レト見ヲ異ニスル人ヲ拒ムト甚
シキニ過クルニ似タリ其人心ヲ失フ所以ハ其
人盛ニニ畏敬セラレ自カラ執ルト固ク其位ニ
在ル間ハ到底其意ヲ行ハントスルニ在リ政体
略定マルト雖モ其基礎未タ堅牢ナラサル國ニ
於テ内閣中ノ議論頑強ニ過クレハ説ヲ異ニス
ル者ノ言路壅塞シ間或ハ上申ノ途ヲ得ルモ蔽
然輕視セラレテ大ヒニ行ハレス故ニ甚タ危ウ
シトス

内閣ノ權ハ甚タ專恣ニシテ其説ノ行否ハ固ヨリ

其論ノ善惡ニ在リ其論少ナクモ一ニ八九ハ皆
公忠ノ心ヨリ出タリトモ武器變カニ敵人ヨリ
モ精銳ナル兵ヲ驅使シ且ツ之ヲ檢束シ其一分
ハ既ニ戰場ニ發遣シテ且ツ日ニ援兵ヲ送レリ
其初戦ハ輕忽ニ敵ヲ襲ヒタルニ由リ敗辱ヲ取
リタレモ爾後又敵ヲ破リタリ但敵兵日ニ増ス
ニ當テ官兵能ク其地位ヲ保タント否トハ知ル
可ラス此戦ハ蓋シ佐加ヨリ三十里ノ地ニ在リ
及徒途上ノ槁梁村落ヲ燒キ佐加ニ退行シタリ
ト云フ廿四日五日六日ノ間ハ官兵ノ進ムヲ聽

カス是レ一直挺進シ糧食器具ニ顧念ス可ラサ
ル時機ナルニ官兵ノ逗撓シテ敵ニ戰備ヲ修セ
シムルハ異シムヘシ然レモ若シ此逗撓ニ因テ
全勝ヲ得ルノ道アラハ我曹黙シテ之ヲ待タサ
ル可ラス是レ官兵ニ一蹉蹶アル可ラサル時ナ
レハナリ政府此亂ニ克タサル可ラス政府此ノ
如キ暴舉ヲ征服スヘキカラ明ラカニ民ニ示シ
テ後來ノ覬覦ヲ絶サル可ラス。
昨日長崎ヨリ得タル報告ヲ觀レハ稍々憂フヘキ
者アリ崎港ニ於テハ其既ニ施セル策ト未タ施

サ、ル策トヲ以テ判スルニ地方官ノ處置怯弱
ヲ極メタリ反徒ノ江戸ニ來リ親シク若狀ヲ演
ヘント請フヲ拒ミテ既ニ自安ノ策ヲ失ヒタル
ニ又憤勵興起シテ衆人ヲ率先スルヲ知ラス
唯反徒市中ニ入ラハ則チ遁走スルノ計ヲ為セ
リ政府沈實英敏及識鑒ヲ要スル重任ヲ取テ未
タ事功ニ慣レス又往々才識ナキ青年ニ附托セ
ハ余恐ラクハ老鍊ナル島津三郎ノ屢々内閣ニ進
言セシ効將サニ至ラントスルヲ「今回ノ乱ハ
固ト政治上ノ爭ヨリ起リタレモ其結局ハ獨リ

敏戢ヲ以テ撲滅シ得ヘシ

右ハ得テ拾集スヘキ至確ノ報告ニ據リ時事ノ
概畧ヲ論シタルナリ其勢ノ甚々危篤ナルハ疑
ヲ容レサル所ニシテ之ニ処スルノ最良法ハ公平
ニ之ヲ察スルニ在ルノミ但外人ノ最モ時事ニ
熟通スト称スル者モ唯、逐次起ル所ノ事蹟ヲ知
ルノミナレハ之ニ基ツク所ノ論モ亦謬誤ナキ
ヲ保セス讀者宜ニ隨テ斟酌スヘキノミ